

# 「体温のあるコトバをたっぷりと、

さい！ほっといて」と言うんですね。でもお母さんやお父さんに体温のある言葉を言われた時は、子どもって足元を見つめ直すんですね。体温のある言葉には反応するんです。子どもは未来に向かってゆっくり歩いていくんです。いろいろ悩んだり考えたり、ゆっくりとね。逆にいつもせかしているのが大人なんですよね。ゆっくり子どもに考えさせてあげたいです。

## 「十秒の愛」 たかが十秒されど十秒

僕はたった十秒が待てない教師でした。でも、昼休みに赤ペン持って作業していると、きに子どもが「先生！話があるんや」と言ってきたとき、「ごめんな、五時間目に使うのでこれだけせなあかんのや。待っててや、ごめんな、ごめんな」と言っただけで、肩をたたくてやったら、「うん、待ってるわ」と言ってくれます。たった十秒、赤ペンを置くことで、子どもとつながれるんですよ。よくお父さん、お母さんに「家で十秒待っていますか？」

って言うんです。料理をしている時も手を止めて十秒聞いてやる。手を握って聞いてやる。肩を抱いてやる。この十秒の愛情を毎日してやったら子どもは心豊かになるんです。

中学生にも同じ

ように言葉をかけて

やる。ああ、思春期で心が揺れているんやなあと思つたら、きつと言葉がかけられるはずなんです。この十秒の愛情が大切なんです。

いじめは駄目、仲良くしよう

と言うのは簡単。でもいじめが無くなつていくのは体験を通してなんです。子どもたちがつながって、仲良くするっていいなあと感動したら、子どもは変わっていくんですよ。感動する経験をどれだけ持っているかですよ。つながって感動することが心地いいことを知っているんです。体験をさせることが大切です。ある時、僕のクラスに障害のある子が入ってきました。子どもがつながるんですよ。その子が苦労している



### 仲島正教氏プロフィール

1956年（昭和31年）兵庫県出石町生まれ、西宮市立小学校教諭、西宮市教育委員会事務局人権教育室指導主事、学校人権教育課係長歴任、現在教育サポーターとして活動、若竹生活文化会館（隣保館）運営委員会委員  
西宮市家庭教育振興市民会議副議長

りました。

様子、頑張っている様子を周りの子は見るんですよ。そして助けてくれるようになりました。こんなことが出来る、あんなことが出来る。これは出来るけどあれは出来ないということが子どもたちは徐々に分かかって、子どもたちがどんどんつながっていくんです。

「なんで得点係にするんや。一緒に仲間やから一緒にしようや」と言うんです。でも、何回試合してもチームは負け続けるんです。だから、みんなは毎日放課後の練習を頑張りました。